

海外安全対策講話

(ミュンヘンの治安情勢と安全対策について)

平成30年 6月23日
在ミュンヘン総領事館

1 バイエルン州及びバーデン＝ヴュルテンベルク州における犯罪発生状況

BY州及びBW州は、犯罪統計上、ドイツで最も安全な地域と言われている。

昨年中の犯罪発生率(人口10万人当たりの犯罪発生件数)は、全16州中、BY州は最も低い1位、BW州2位、ヘッセン州3位、ノルトライン＝ヴェストファーレン州11位、ハンブルク州15位、ベルリン州は最も高い16位であった。

また、BY州及びBW州主要都市における犯罪発生件数は、次表のとおり。[]内は犯罪発生率、()内は犯罪発生率を基にした東京都との比較。「**当地と日本では、治安情勢、安全対策に対する評価、感覚にずれがある**」ことを知る必要がある。

なお、昨年中の当館認知にかかる邦人の犯罪被害件数は、約十件で、いずれも盗難被害(置引き、すり)であった。

平成29年	ミュンヘン	シュトゥットガルト	ハイデルベルク	カールスルーエ	ニュルンベルク
全犯罪	90,804件 [6,201件] (6.6倍)	53,074件 [8,451件] (9.1倍)	14,745件 [9,221件] (9.9倍)	25,767件 [8,312件] (8.9倍)	42,948件 [8,394件] (9.0倍)
殺人	—	30件 (6.5倍)	8件 (6.8倍)	8件 (3.5倍)	37件 (9.8倍)
強盗	527件 (13.8倍)	514件 (31.3倍)	72件 (17.2倍)	199件 (24.5倍)	287件 (21.4倍)
強姦性交等 強制わいせつ	287件 (3.0倍)	268件 (6.5倍)	—	101件 (4.9倍)	199件 (5.9倍)
すり ひったくり	2,155件 (9.9倍)	1,514件 (16.2倍)	—	711件 (15.4倍)	—
麻薬犯	9,361件 (24.2倍)	5,153件 (31.1倍)	1,157件 (27.4倍)	1,894件 (23.1倍)	4,461件 (33.0倍)

2 ドイツにおけるイスラム・テロ発生状況

日時	場所	手口	犯人	発生状況等
平成28年 2月26日(金)	ニーダーザクセン州 ハノーファー 駅	刃物襲撃 (ナイフ)	モロッコ国籍 15歳 少女1人	駅構内で警察官を襲撃。 負傷者1人
平成28年 4月16日(土) 19時頃	ノルトライン＝ヴェスト ファーレン州エッセン 寺院	爆破	16歳 少年2人	結婚式後のシーク教寺院 を爆破。 負傷者3人
平成28年 7月18日(月) 21時頃	BY州 ヴュルツブルク 電車	刃物襲撃 (斧)	アフガニスタン国籍、17歳 難民少年1人	近郊列車内で乗客を襲撃。 負傷者5人
平成28年 7月24日(日) 22時頃	BY州 アンズバッハ コンサート会場	爆破 (手製爆弾)	シリア国籍 27歳 難民男性1人	野外コンサート会場外で自爆。 負傷者15人
平成28年 12月19日(月) 20時頃	ベルリン州 ベルリン クリスマスマーケット	車両突入 (大型トラック)	チュニジア国籍 25歳 難民男性1人	クリスマスマーケットで来場客 等に突入。 死者12人、負傷者50人
平成29年 7月28日(金) 15時頃	ハンブルク州 ハンブルク スーパーマーケット	刃物襲撃 (ナイフ)	パレスチナ国籍 26歳 難民男性1人	スーパーマーケット内外で買 物客等を襲撃。 死者1人、負傷者6人

3 バイエルン州及びバーデン＝ヴュルテンベルク州におけるテロ等の脅威

平成28年以降、BY州、BW州では、2件のイスラム・テロのほか、約十件の無差別襲撃事件が発生しており、数多くの死傷者が生じている。

今後についても、イスラム過激思想に感化された若者によるテロ、薬物乱用者・精神疾患患者による無差別襲撃事件の発生が懸念される。

(1) 平成28年以降の無差別襲撃事件発生状況

- ① 平成28年5月10日(火)5時頃、BY州ミュンヘン郊外の駅において、ドイツ国籍、27歳の男性1人が通行人等にナイフで襲い掛かり、1人を刺殺、3人に重傷を負わせた。
- ② 平成28年7月22日(金)18時頃、BY州ミュンヘンのショッピングモールにおいて、ドイツとイランの二重国籍、18歳の少年1人がけん銃を乱射し、9人を射殺、27人に重軽傷を負わせた。
- ③ 平成28年7月24日(日)16時頃、BW州ロイトリンゲン市街地の屋外において、シリア国籍、21歳の難民男性1人が交際女性1人をナイフで刺殺した。逃走中、通行人等に襲い掛かり、5人を負傷させた。
- ④ 平成29年2月25日(土)16時頃、BW州ハイデルベルク市街地の広場において、ドイツ国籍、35歳の男子学生1人が通行人に車両で突入し、1人を殺害、2人に軽傷を負わせた。
- ⑤ 平成29年3月29日(水)11時頃、BY州レーゲンスブルク市街地の広場において、シリア国籍、23歳の難民男性1人が通行人にナイフで襲い掛かり、1人に重傷を負わせた。
- ⑥ 平成29年6月13日(火)8時半頃、BY州ミュンヘンの駅において、ドイツ国籍、37歳の男性1人が警察官からけん銃を奪い取って乱射し、3人に重軽傷を負わせた。
- ⑦ 平成29年7月30日(日)4時半頃、BW州コンスタンツのディスコクラブにおいて、イラク国籍、34歳の男性1人が軍用銃を乱射し、1人を射殺、16人に重軽傷を負わせた。
- ⑧ 平成29年9月16日(土)22時半頃、BY州トラウンロイトの居酒屋において、ドイツ国籍、62歳の男性1人がライフル銃を乱射し、2人を射殺、2人に重傷を負わせた。
- ⑨ 平成29年10月21日(土)8時半頃、BY州ミュンヘン市街地の広場等において、ドイツ国籍、33歳の男性1人が通行人にナイフで襲い掛かり、8人に軽傷を負わせた。

(2) 本年中のテロ関連事件検挙状況

- ① 1月24日、BY州オーバーバイエルン県において、過去にボコ・ハラム戦闘員として殺人、人質略取、放火等に加わったとの理由で、ナイジェリア国籍、27歳の難民男性1人が逮捕された。
- ② 3月21日、BW州において、イスラム国戦闘員4人のために、偽名のSNSアカウント、Eメールアドレスを作成したとの理由で、ドイツとアルジェリアの二重国籍、32歳の男性1人が逮捕された。
- ③ 5月2日、BW州チュービンゲンにおいて、過去にイスラム国のスパイとして活動したなどの理由で、シリア国籍、25歳の男性1人が逮捕された。
- ④ 6月6日、BY州アムベルク＝ズルツバッハ郡において、過去にイスラム国戦闘員として活動したとの理由で、イラク国籍、20歳代後半の男性1人が逮捕された。
- ⑤ 6月6日、BW州ハイデルベルクにおいて、過去にイスラム国戦闘員として活動したとの理由で、イラク国籍、18歳の少年1人が逮捕された。

(3) 日本に対するテロの脅威

日本人、日本権益を狙ったテロの発生も懸念される。

- 平成27年以降、シリア、チュニジア、バングラデシュでのテロ等により、日本人複数人が殺害されている。

- 平成27年2月・10月、イスラム国は、日本人をテロの標的と名指した。
- 平成27年9月、イスラム国は、日本外交団(ボスニア・ヘルツェゴビナ、マレーシア、インドネシア)への攻撃を呼び掛けた。

4 テロ等の予防と対処法

(1) 平素からの心構え

- 「ここは日本ではない」という意識を持つ。
- 自身、家族、友人、職場等のため、当事者意識を持って、安全対策に取り組む。
- テロや犯罪に関する情報を確認する。
- 安全な時間、場所、行動等を選んで生活する。
- 危険な時間、場所では、周囲の状況に注意を払い、隠れられる場所や避難ルートを確認しておく。
- 不審な人物や状況を察知した場合には、速やかにその場を離れる。
- 外出時間、場所等を家族、友人、職場等に知らせておき、互いに注意喚起する。
- 万一に備え、警察、消防、職場、学校等の連絡先を確認しておく。
→ 警察:110、消防:112、当館:089-4176040

(2) テロに遭遇した場合の対処法

- 「隠れる」「慌てない」「逃げる」
- 爆発音、銃撃音等が聞こえた場合には、まずは物陰に隠れるか、その場に伏せる。
- パニックに陥らず、周囲の状況をよく確認する。
- 可能であれば、低い姿勢を保ちつつ、速やかに安全な場所に避難する。

5 当館からのお知らせ等

- テロや犯罪に関する情報確認等は、**当地治安当局FB・ツイッター**のほか、**当館HP・メールマガジン配信サービス、外務省海外安全HP・「たびレジ」**、「**ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル**」をご活用ください。
- 住所、電話番号、メールアドレス等「**在留届**」の提出内容に変更があった場合には、**変更届**をご提出ください。

海外に行く前の3STEP!

1

✓ 海外安全ホームページをチェック!

あなたの行く国はどんな国?どんなことに注意すべき?
◎予習が大切。

2

✓ 海外安全情報メール配信サービス「たびレジ」に登録!

いつでもどこでも最新の情報をお手元に!
◎急な事件・事故にも対応できるように。

3

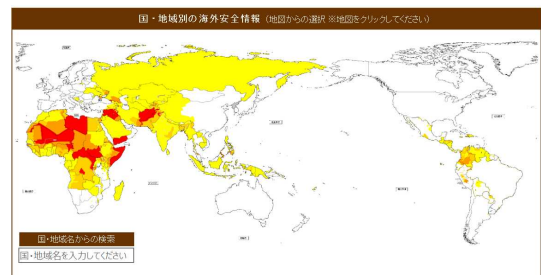
✓ 意識を海外モードに!

海外では日本と違った危険が待ち構えています。いつも以上に慎重な行動を!
◎「このくらい平気」は禁物!冷静な行動を心がけて。

旅行中もこまめに情報チェック!

さあ、しっかり準備して出発しよう!

外務省領事局



海外安全HP(6月21日付)

テロ事件に巻き込まれないための基本予防策と対処法

テロ事件は予測するのが難しい……
でも、普段からの心掛けと対処で被害を最小限に抑えることができます！



予防策

銃撃・爆発事件の発生を予測することは難しく、防ぎようがないと思われるかもしれません。しかし、銃撃・爆発事件の発生場所、時間帯などには「傾向」があります。それを知るだけでも、事件に巻き込まれる可能性を下げることができます。また、運悪く巻き込まれても、行動の仕方によっては被害を最小限に抑えることができます。

基本！

危険な国・場所・時間帯を避ける。
(「海外安全ホームページ」で情報収集)

用心を怠らない 目立たない。
(直接の標的とならないために)

周囲の不審者・不審物に注意を払う。
(大きな荷物、不自然な厚着等)

万が一に備える。
・「たびレジ」で連絡先を登録する。
・非常口等、退避ルートを確認する。
・隠れられる場所を確認する。

対処法

万が一銃撃・爆発事件に遭遇してしまっても、パニックにおちいらず、被害をより小さく食い止めるよう努めることが重要です。爆発の規模、発生場所等によりその対応は様々ですが、大事な点は以下のとおりです。
銃撃・爆発事件に遭遇した場合は、必ず現地の日本国大使館又は総領事館に連絡することもお忘れなく。

もし…

爆発音・銃撃音を聞いたら…
その場に伏せる。
頑丈なものの陰に隠れる。

事件現場に居合わせたら…
周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう速やかに、低い姿勢を保ちつつ、安全なところへ退避する。

建物等の下敷きになったら…
体力の温存を心掛ける。
有害物質を吸い込まない。
パイプなどを叩き居場所を伝える。

事件に遭遇したら…
大使館・総領事館に連絡する。

海外旅行のテロ・誘拐対策

3つのポイント



危険な国・場所に近づかない

テロ・誘拐・武力衝突の多発する地域には決して旅行しないください。また、一画の中でもテロの対象となる可能性の高い地域や高層があります。「海外安全アプリ」(http://www.anzen.mofa.go.jp/)で渡航先の最新の治安情勢を確認しましょう。

銃撃・爆弾テロにも予防策あり

観光地でも爆弾テロが発生しています。渡航先の治安情勢とるべき安全対策をしっかりとチェックしてください。「海外安全アプリ」や「たびレジ」を活用すれば、旅行中も正確な情報がわかります。

身近に迫る誘拐の脅威

現地の人に誘われるままについて行って拘束され、金品を巻き上げられるケースや、空港で乗ったタクシーでそのまま誘拐されるケースもあります。警戒心を怠りすぎずに！

外務省領事局邦人テロ対策室

危険な場所・時間とは

テロや誘拐事件は世界各地で増加しています。近年、公共交通機関やホテルなど、一般旅行者も利用する施設で銃撃・爆弾テロが発生する例が増えています。また、これまでにテロがなかった国でも発生しています。しかし、各国の事情を踏まえ、以下の点に注意することによりテロの被害に遭う危険性を下げることができます

外国関連施設・宗教施設



例) アジア・アフリカ・中東での外国大使館・外国系銀行を狙った爆発事件
アジア・中東の宗教施設での爆発事件

- 国によっては外国関連施設がテロの標的になっています。
- 国によっては宗教関連施設でテロ事件が発生しています。

公共交通機関



例) 欧州の地下鉄・バス・航空機での自爆テロ
アジアのバスターミナルでの爆発事件

- 国・地域の治安事情にあわせて交通手段を選ぶ。
- 周囲の状況に注意し、不審な人物・物がないかを確認する。

リゾート地・ホテル



例) 中東・アジアの首都・リゾートのホテル等での自爆テロや銃撃事件

- 十分な安全対策をとっているホテルを選ぶ。
- ホテルの入り口、フロントなど、いろいろな人が簡単に立ち入ることができる場所にいる時間をできるだけ短くする。

市場・繁華街・観光スポット



例) 中東・アジア・欧州等の市場・繁華街での銃撃・爆発事件

- 人混みや外国人が多く集まる場所にはできる限り近づかない。
- ガラスを多く使用した建造物の周辺は通行しない。
- 夜間、特に深夜の外出は控える。

銃撃・爆弾テロ事件

観光地・リゾート地



例) 訪問中東某の空港で到着客をタクシーにより誘拐
アジア某国某市、いくつかの乗客に襲撃し、その後身柄を拘束
リゾートアランドでの高速船による誘拐

- 自立つ服装・行動を慎む。
- 見知らぬ人物には決してつかない。
- 空港の到着ロビーなどで、日本語を巧みに使い近づいてくる人には十分に注意する。
- あやしいタクシー(白タク等)には乗らない。

誘拐事件

海外旅行前にはまず情報収集を！

「外務省海外安全ホームページ」
http://www.anzen.mofa.go.jp/

海外旅行を楽しむためには、十分な情報収集と安全対策が欠かせません。外務省の「海外安全ホームページ」には、テロ・誘拐事件の傾向、危険地域、テロや誘拐対策パンフレットなど、旅行ガイドブックにはない重要な情報が掲載されています。

「海外安全ホームページ」活用のポイント！

「海外安全情報」をチェック！
国別に設けてある「海外安全情報」の中で、特に注意が必要な国・地域については「危険情報」、「スポット情報」、「広域情報」等を出しています。

「危険情報」を自らの旅行のプランニング
危険な国・地域に行かないことがテロ・誘拐事件などの被害に遭わないための一番の予防策です。

「海外安全アプリ」で旅行中もチェック！
旅行に携帯するスマートフォンに「海外安全アプリ」をダウンロードすれば、旅行中も最新情報がチェックできます。

※「レベル4 退避勧告」・「レベル3 渡航中止勧告」が発出されている地域(例:イラク、アフガニスタン等)にはどのような目的であれ、渡航は止めてください。

※「レベル1 十分注意」地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。

※「レベル2 不要不急の渡航中止」地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。

※「危険情報」が出ていない場所でもテロが発生していますので、テロに対する一般的な注意事項を確認しましょう。

外務省代表

電話番号：(代表) (03)3580-3311

領事サービスセンター

電話番号：(直通) (03)5501-8162

領事局邦人テロ対策室(海外におけるテロ事件、誘拐、脅迫、ハイジャック、人質事件)

電話番号：(直通) (03)5501-8165

領事局海外邦人安全課(上記以外の一般邦人保護、緊急事態の邦人保護等)

電話番号：(直通) (03)5501-8160

たびレジ

https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/

海外安全アプリ

App Store または Google Play で「海外安全」で検索